

**空木マイカさん**  
 ラジオパーソナリティ、  
 JICA中部なごや地球ひろば  
 オフショールサポーター

日々の生活の中には、何かを  
 選択する瞬間がたくさんあります。  
 何を食べ、なぜそれを買ひ、どれく  
 らい使うのか？その一つひとつにきち  
 んと理由を持つこと。あなたのその選  
 択は地球の未来に繋がっています。  
 もう一度、選び方の基準、  
 一緒に見直していきませんか？



**マリクリステイヌさん**  
 あいち海上森センター  
 名誉センター長

**お互い様**  
 日本は昔から「結」「手間換え」と  
 いう言葉があります。これはお互い助  
 け合うということ。  
 自然と人間が共存する中ではとった  
 ら戻すことも必要です。お互いに支え  
 あう気持ちがあつてこそが里山暮らし  
 の原点であり、持続可能な社会を目指  
 していきけるのではないのでしょうか。



**鈴木邦夫さん**  
 新盛里山耕流塾  
 実行委員会会長

都市と農山村の交流を通して里山再  
 生と活性化に取り組んでいます。  
 先人より受け継いだ里山に新しい可  
 能性を感じ、自然と人、人と人の絆を  
 大切に活動に取り組んでいます。



**青山裕子さん**  
 愛知県ネイチャーゲーム協会  
 理事長

最近、わたしは鳥の巣づくりを通  
 して、生きもののつながりと知恵を  
 感じました。  
 身近な自然で気づいた、命のつな  
 がりを感じ合いませんか。  
 子どもたちに残せるより良い地域  
 を目指して、暮らしの知恵を出し合  
 いませんか。



持続可能な豊かな社会をつくるネットワーク  
 私たちは、森川  
 里海（もりかわ  
 さとみ）からたくさんのコトを  
 学んでいます。  
 エネルギーマの自炊をハジメマ専科。  
 がんばろう！  
 (ニッポン)  
 みんなの東北プロジェクト  
 推進中。

**宮崎喜一さん**  
 Arit & I E自然学校代表、  
 造形作家

人間の衣食住を支えている全てのも  
 のは、地球上の命や素材です。  
 先人達が知恵と手を使い創り出して  
 来ました。  
 今こそその力を取り戻す時。  
 「作る力は生きる力」。  
 「買う」から「作る」。  
 生活価値感の転換を提案します。



**阿部健一さん**  
 総合地球環境学研究所  
 研究推進戦略センター 教授

人と人、人と自然の間で、つながる  
 ことによって豊かになることがありま  
 す。逆に、つながりが切れると問題を  
 生じる・・・  
 今回の震災は生活の利便性や物質的  
 豊かさを追求する価値観の見直しを迫  
 りました。健全で豊かなつながりのほ  
 うが大切だという、あらたな価値観が  
 必要ではないでしょうか。



みんなで考え、身近な暮らしから変  
 えよう。  
 本フォーラムは、平成19年以来、人  
 が自然と共生する社会づくりについて  
 森林・里山や生物多様性をキーワード  
 にして考え、広く提言を発信していま  
 す。震災は私たちの生き方を謙虚に見  
 つめ直す契機となりました。



近代化や効率化のあくなき追求に  
 伴う大きなリスクを改めて実感しま  
 した。  
 世界には自然と共生してきた多様  
 な民族の知恵や文化があります。  
 世界に大きく視野を広げ、私たち  
 の社会と地球の未来を考え、行動し  
 ましょう。



福島第一原発事故は、これまでの  
 暮らしのあり方に根本的な見直しを  
 迫っています。  
 その答えは、私たちひとりひとり  
 が、少しずつ持つています。  
 語り合うことによって、答えが見  
 つかるのでは。  
 心しずかに語り合ひましょう。



# リニモ車内会議



↑リニモ車内の様子

フォーラムの出演者や活動団体から  
 フォーラムのテーマに関する16件のご  
 意見をいただき、9月27日から10月2  
 日までの間、リニモ車内に掲示しまし  
 た。

さらに、意見を募集し、フォーラム  
 への議論につなげました。  
 皆様からお寄せいただいた意見等は  
 フォーラム本体の会場に掲示しました。

大地震やその後の災害は、今までの  
 生活のあり方の根本を揺るがしていま  
 す。  
 持続可能な社会を創造していくヒン  
 トは、「海上の森」が与えてくれそう  
 な気がしてなりません。あなたの知恵  
 と力をお貸しください。



地下資源に依存する現在の社会は持  
 続可能ではありません。  
 かつての日本には自然を畏れ敬いな  
 がら利用する文化がありました。  
 私たちと自然のつながりを取り戻す  
 ことが、社会を持続可能にしていく近  
 道だと思えます。



「じろじろウォッチングの勧め」  
 職場や学校に家族と、自分のこと  
 で精一杯のあなた！  
 いちど空の上から自分を見下ろし  
 てみませんか？  
 次に無意識に通り過ぎていた街並  
 や身近な自然をじろじろウォッチング  
 してみませんか？  
 きつと何かが見えてくるはず。



持続可能な社会を目指すということ  
 は、現在はそのような社会でないとい  
 うことです。  
 では持続可能な社会を目指すために  
 必要なものは「価値観やライフスタ  
 イルを変える」ことです。  
 そのためには「環境教育」が必要で  
 す。全力で取り組んでいます。



自然が大好きな私達。毎月2回、  
 様々な自然を観察し、新しい発見にと  
 きめています。  
 地球を守ってくれているのは小さな  
 生き物たちであることを知り、全て  
 の命が愛おしい！  
 今、懸命に子ども達に伝えて  
 います。  
 NPO法人東海自然学園

持続可能な社会を実現するには、  
 「環境×経済×社会」の統合が必要だ。  
 今はどれも壊れかけている。  
 「対話」をしよう。  
 今を生きる私たちが何を残せるのか  
 をテーマに。  
 中部環境パートナーシップオフィス  
 (EPO中部)

